

可茂農林事務所の普及活動状況（12月）

今月の重点活動

■ 農業担い手リーダー 井戸「畑」会議

11月29日、「農業の現場を学ぶ出前講座」の一環として、加茂農林高等学校において井戸「畑」会議が開催されました。就農に関心を持つ高校生19名が参加し、可茂地区指導農業士、女性農業経営アドバイザーおよび青年農業士15名と意見交換を行いました。

4年前から、農林事務所と指導農業士会が共同開催してきましたが、今年から女性農業経営アドバイザーから農業高校との交流の希望があり、また、農業高校からも若手農業者との交流希望があったため、青年農業士も含めた3組織の農業者が参加しました。

会議はワールドカフェ方式で和やかに進められ、高校生は自身の夢を語ったり、農業担い手リーダーの実際の経営の話に耳を傾けたりして、熱心な意見交流がされました。終了後にそれぞれから感想が述べられ、3年間連続して参加している高校生からは、この意見交換をきっかけに県農業大学校への進学を決めたとの話がありました。

今後も、農業担い手リーダーの活動を積極的に支援するとともに、将来の重要な担い手である農業高校生の活動についても支援を継続していきます。

（地域支援第二係・加藤昌亮、黒川純子）



【井戸「畑」会議の様子】

売れるブランドづくり

■ 茶 県GAP確認の審査に向けて最終確認の実施

県GAP確認申請に向けて支援していた白川町の茶生産組合の農場審査が12月中旬から行われました。審査直前の12月9日に、組合事務局及び施設管理責任者等と審査に向けた最終確認を行いました。

GAPチャレンジ推進支援事業を活用して整備したLEDライト等の確認、土足厳禁等の掲示物の確認、また組合員の茶園台帳や内部点検結果等の書類の確認を行いました。

今回のGAPの取組みにより、今まで意識していなかったリスクにも向き合う姿勢が組合の中に表れ始め、自らPDCAサイクルを回せる体制が整ってきています。この取組みを他の茶生産組合にも広げられるように、研修会等を行っていきます。

（園芸産地支援係・広瀬貴士）



【審査前の確認の様子】

■ 茶 白川町の茶産地の将来に向けて議論

茶価の低迷により、美濃白川茶の生産量、販売額ともに右肩下がりであり、産地の維持が懸念される状況にあります。白川町茶業振興会では、そのような状況を打破するため、茶生産組合の代表者や白川町、茶連、JAめぐみの、農林事務所等の関係者をメンバーとした話し合いの場を何回か設け、産地計画作成を目指して検討を進めています。

11月28日に、今年度2回目の検討会が開催されました。各生産組合の今後の見通し等のアンケート調査結果が報告された後、4グループに分かれて、産地や組合の現状と、理想とする姿及びそのために何をしていたらいいかについて話し合われました。



【検討会の様子】

今後の生産量の縮小傾向が懸念されるなか、「何とか産地を維持していきたい」という思いが共有でき、茶園や茶工場の集約化や茶園整備等による効率化、他と差別化できるお茶づくりを行うべき等、様々な取り組みが挙げられました。

農林事務所は、今後も他産地の取り組み、国・県の施策を踏まえたアドバイスを行っていきます。
(園芸産地支援係・広瀬貴士)

多様な担い手づくり

■坂祝町 農福連携による苗づくり始まる

坂祝町社会福祉協議会では、障がい者の方だけでなく、様々な理由で未就労の方が社会復帰を目指すための研修施設として農業用ビニールハウスを設置しています。

ハウスでは、12月から小松菜やブロッコリーなどの野菜苗をポリポットに植え替える作業が始められました。

この野菜苗は、販売や、研修に参加する方が自分の畑に植える苗として利用されています。

植え替え作業や自分で畑に植えることで、勤労に前向きになれるなど研修を通じた今後の社会復帰が期待されます。今後も、引き続き栽培方法を中心とした支援を行っていきます。

(地域支援第一係・斉藤政隆)



【鉢上げを待つ野菜苗】

■JAめぐみの就農塾 土壌肥料等の基礎に関する講義

JAめぐみでは、新規就農者を増やすため、管内振興品目である「さといも」及び「夏秋なす」の基本栽培技術を1年かけて学ぶ「JAめぐみの就農塾」を開催しています。

栽培が一段落したこの時期に、土壌肥料等の基礎に関する講義を毎年実施しており、12月19日に農業普及課職員が就農塾生20名強を対象に講義を行いました。今回は昨年の講義内容に工夫を加え、より重要な項目を絞って理解が深まる講義内容としたため、「土壌肥料のことが非常によく理解できた」と好評でした。あと3ヶ月程度で今年度の就農塾も終了しますが、今後も1人でも多く就農者ができるように支援していきます。

(地域支援第一係・三輪俊貴)



【講義の様子】

住みよい農村づくり

■耕作放棄地対策 農地再生イキイキ週間

12月1日、御嵩町御嵩の耕作放棄地にて、農地イキイキ再生週間の取り組みとして、除草作業が行われました。

御嵩町農業委員会の主催により、作業には農林委員、地元関係者、御嵩町・農林事務所職員など総勢30名が参加しました。

農地は高さ3mくらいのススキが生い茂っており、刈り払い作業は、(農)ふしみ営農が今年度に県中山間地等担い手育成支援事業で導入したオフセットモアが主力となって行い、周囲除草は電動刈払機を用いて行いました。

約3時間の作業で12aの農地が再生され、次年度からは、町内の担い手により水稻栽培が行われる見通しとなっています。

(地域支援第二係・加藤昌亮、加藤瑞穂)



【刈り払い作業の様子】